

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2770302202
法人名	社会福祉法人 月の輪学院
事業所名	グループホーム つかさの家
訪問調査日	平成 20 年 2 月 19 日
評価確定日	平成 20 年 3 月 7 日
評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 2月27日

【評価実施概要】

事業所番号	2770302202
法人名	社会福祉法人 月の輪学院
事業所名	グループホーム つかさの家
所在地	大阪府寝屋川市仁和寺本町二丁目3番5号 (電話) 072-826-5000

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成20年2月19日	評価確定日	平成20年3月7日

【情報提供票より】(平成20年1月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	16 人	常勤 4 人, 非常勤 12 人, 常勤換算	4.65 人

(2) 建物概要

建物構造	コンクリート 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	27,000 円
敷金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,500 円

(4) 利用者の概要(2月19日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 78.25 歳	最低	59 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	道仁病院 東歯科医院 東診療所
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道1号線沿いの淀川河川敷まですぐの距離の、まだ少し田圃が残っている、大きな家屋が多い集落に事業所がある。有力者が手放した豪邸をほとんどそのまま利用しているグループホームであるから、誰もが一度は住んで見たくなる様な贅沢な邸宅風のホームとなっている。利用者はその高級住宅の家人のような雰囲気ですらしている。毎朝の散歩、ティータイム、広い応接で新聞に目を通す利用者があり、ゆったりと時間が流れている。長年の看護師経験を経て認知症ケアの分野に入った管理者が目指す「家族のように安心して生活できるホーム」の実現に向けて運営者、職員が一体となって取り組んでいる様子が、管理者の熱い言葉から伝わってくる。自治会、老人会や地域福祉サービスとの交流が多く、近隣も協力的で理解があるようである。今後とも一層、地域に根ざしたホームの運営が期待できる事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者は前回評価での取り組み課題を改善すべく、運営者及び職員と協力してひとつひとつ計画を立て取り組んできた。モニタリングやケース検討会議の改善や確実な引継ぎ等の改善に成果が確認出来た。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員が全員参加する自己評価が行われた。管理者は当サービス評価を前向きに捉えて事業所運営の改善に取り組む姿勢を持っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	自治会長、地域福祉の代表や近隣の代表者が運営推進会議のメンバーとなって出席率も高く、協力的で会議内容も含めて運営推進会議の目指す姿に近い形になっている。今後とも地域密着へ向けたの事業運営が期待できる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会が結成されて、家族と一緒に協力して利用者が安心して暮らせる支援を心掛けている。利用者の暮らしぶりや健康についての状況は詳しく家族に報告され、家族に安心感を与えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日課となっている朝の散歩で気軽に近隣の住民と挨拶を交し、自治会や老人会、地域福祉委員会の行事に参加できている。ホーム便りを配布するなど地域に溶け込む努力が行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	現在の事業所の理念は、管理者が長年培った経験と真摯な思いで作上げられたものである。管理者自身の筆で書いた理念が玄関、リビング、事務室の目に付くところに掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員は日常の介護が理念に沿ったものになっているかをスタッフ会議や引継ぎ時に確認することを心掛けている。お互いに話し合いを重ねながら理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所建設の段階から近隣に説明して、理解と協力を得られるように努めた。近隣の理解は得られている。地域の自治会・老人会・福祉委員会等の行事に参加するなどの積極的な交流が実現しているが、認知症についての地域還元がなされていない。	○	地域との支え合いを強めるために、認知症に関する事業所の知識等を地域に還元する取組みも検討して欲しい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が参加して自己評価が行われている。管理者は当サービス評価を事業所の運営改善に活かそうという姿勢で取り組んでいる。前回の評価時に取り上げた課題はいずれも改善されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は地域の自治会、福祉委員、住民の代表と家族代表、市担当職員が出席して行われ、運営推進会議の目的とする地域に名指した事業所の実現に向けた内容であり、地域との交流や情報交換が具体的に進む会議内容になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	積極的に施設側から高齢介護室、社会福祉課、地域包括支援センターへ事業所のサービスの内容に関する報告相談が行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の趣味の作品や暮らしぶり、そして健康状態が詳しく家族へ報告されている。職員が手紙で様子を知らせるなど家族との良好な関係を作るための工夫も行われている。ホーム便りも発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	早くから家族会を作って、家族の要望等を事業所に対して表し易いように配慮をしている。管理者及び職員は開かれた運営に努め、家族から本音の要望を聞き取るように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者ごとの担当職員を決めて家族を含めた馴染みの関係構築が出来るように配慮をしている。職員の異動による影響を最小限にするように、管理者は職員の働く環境づくり等も考慮しながら運営を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の育成を重要課題と認識して取り組んでいる。職員の能力に応じた研修計画や現場指導を行っている。資格取得への協力や内外の研修には出来る限り参加の機会を設けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者ネットワークを通じた交流、個別には同業者との情報交換を行って事業所の運営に活かすようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者はサービス開始時の対応を重視して、必要に応じて体験入居をしてもらったり、その人に必要な支援は何かを見極め不安を取り除く努力をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者は、利用者が生きる意欲を持って健康な毎日の生活が送れるように支援をするように努めている。利用者の状況に応じた自立に向けた支援が行われている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者ごとに担当職員が決められている。毎月のケア会議では、それぞれの担当職員が利用者の暮らし方への意向を把握して報告し、本人本位の対応になるように、管理者及び他職員に相談して支援方針を決めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の希望を聞き、さらに家族や関係者に相談しながら介護計画書が作成されている。に利用者が居心地よく、健康で常に前向きに生きて行けるよう介護の目標を決めて計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の利用者の状況について月例のスタッフ会議の中で、担当職員や他の職員と意見の交換をして、ケア会議を行っている。変化が生じた場合には介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や特別な外泊、外出支援など利用者や家族の要望に柔軟に対応する方針であり、対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くの医師との信頼関係が出来ていて、気軽に動いてくれる体制が整っている。月1回の往診や年1回の定期健診にも応じ電話相談にも答えてくれる関係及び体制となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に近い状況に至った事は過去に経験しているが辛い回復した。家族に対して重度化した場合の事業所の対応については入所時に詳しく話しているが、事業所としての指針となるような対応方針として文書化したものはない。	○	今後の重度化対応あるいは終末期の利用者への対応方針について、少しずつ事業所としての対応方針を運営者、職員及び関係者間で話し合いながら方針の統一をして行く取り組みを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の気分、気持ちに配慮した会話・声かけや対応を行っている。個人記録等への情報管理も気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活暦を大切にして、一応はホームの日課に沿って暮らしているが、本人の希望や体調を確認して、出来る限りその人のペースに沿うようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誰もが手伝えるキッチンで食事の用意がされており、利用者は自分の出来る家事をしている。管理者及び職員は料理も心のかもった内容でありたいと考えている。食事の前に、飲み込みの口腔体操をして楽しく食事している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴が出来る。浴室は広く、ゆっくりと入浴できるようになっている。職員は利用者のこれまでの生活習慣や好み、希望に合わせた入浴支援に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の残された能力が出来るだけ発揮できるように、張り合いのある毎日であるように、日常の家事の役割や趣味について工夫をして、利用者毎の出番を作るようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	午前中の散歩が日常化している。自然が残った環境の中に施設があり、近隣の人達とのふれあいや、神社への散策が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ゆったりとした住居スペースと広い庭に恵まれていて、フェンス以外は施錠されていない。広い施設内では自由に外に出て植物の世話をしたり眺めたりしている。職員による利用者一人ひとりの外出傾向の把握が出来る。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策責任者を決め、計画的に訓練している。特に利用者の誘導方法を意識した訓練を毎月行っている。併設の福祉施設との共同訓練は定期的に行っているが地域と共同訓練は実施できていない。	○	地域の自治会が行う自主防災訓練や、地域福祉委員会の要介護者避難訓練が行われる時に事業所として訓練に参加する等の取り組みを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康面の管理の仕組みが充実している。『見守り表』という帳票でバイタル、食事・水分摂取から入浴、睡眠、排泄等に関する総合データが日々個人別に記入されている。医師の受診時に参照するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、吹き抜け等、ゆったりとした共用空間は、邸宅風な家そのままである。広い居間には大きなソファとテーブルがある。飾り棚にはさりげなく置物が置いてあり、季節ごとに模様替えされている。2階の居室部分にもパブリックスペースがある。また、不快な臭気には特に気を付けていて、利用者、来訪者にも心地よく過ごせるようにしている		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自分のベッドが持ち込まれ、家具・装飾品などが置かれており、利用者毎の部屋作りになっている。綺麗に掃除され、ゆったりとした居心地で温かさが感じられた。		